

松本砂防事務所新庁舎完成

◆事業概要

松本市元町地内に位置する松本砂防事務所の旧庁舎は、昭和42年に建築されたもので経年劣化による老朽化が甚だしく、組織や情報機器の増設により狭隘である上、耐震安全性を満足していませんでした。

新庁舎は平成15年度から旧庁舎敷で建替工事を実施し、本年11月に新庁舎が完成し12月26日（月）から新庁舎での業務を開始しました。

引き続き、情報機器等の移設作業、仮庁舎の取り壊し及び駐車場整備工事等を今年度内に施工し、平成18年3月末には全ての工事が完了します。

◆施設概要

建設地 : 松本市元町1-8-28 敷地面積 : 約2,850㎡
構造規模 : 鉄筋コンクリート造2階建 延べ面積 約1,850㎡
工期 : 平成15年8月 ~ 平成17年12月（外構工事はH18.3まで）

◆施設の特徴

1) . 広域災害支援の拠点化

震度7にも耐えられる安全性を確保、災害対策室と情報通信網の整備、井水貯留槽(5t)を設置し災害時に飲料水と水洗トイレを住民に提供できる等、地域の防災拠点として機能

2) . 簡素な庁舎とコスト縮減

徹底した執務スペースの見直しやつばさ杭などの新技術の採用により約3割のコスト縮減

3) . 地域に開かれた事務所

流域情報の提供、砂防事業の紹介など地域に親しまれる事務所となるよう機器整備、バリアフリーを念頭に待合いホール、多目的トイレ、自動ドア、エレベータ等を整備

4) . 環境配慮型庁舎

地場産木材の使用、自然エネルギー（太陽熱）を利用

5) . 能率的で良好な執務環境の確保

事務室の一体化、十分な採光の確保、リフレッシュコーナーの設置



(補足説明)

地震の発生確率

松本砂防管内全域は糸魚川ー静岡構造線活断層帯に位置し、松本市及び周辺には 牛伏寺断層をはじめとした断層群がある。これら活断層によるマグニチュード 8 以上の地震の発生確率は 100 年以内に 41%、30 年以内に 14%と算定されている。

井水貯留槽

構内に深さ 50mの井戸を設置し平常時の使用のほか、常時 5tの貯留槽に井戸水を蓄え非常時の飲料水・水洗用の中水として使用。井戸水の水質試験の結果は良好で、検査機関からは松本市「^{ほんち}源地の湧水群」（松本城南に広がる湧水）相当とコメント。

コスト縮減

床面積は標準的計画面積 2,680m² 対し、機能の共有化や電子システムの活用により改築実施面積 1,850m² としたこと、基礎工法では従来の中掘工法からつばさ杭工法としたこと、残存型枠の使用などにより工事費で約 3 割縮減。

つばさ杭(先端翼付き回転貫入鋼管杭)

砂質・砂礫地盤に適用され、鉛直支持力が大きく経済設計でき、低騒音・低振動、無排土で施工可能。

つばさ杭の先端翼



つばさ杭の打込み芯出し



つばさ杭の施工概要図

(3 点支持式)

